頑張ってます！『シーパラダイス室津』
～５年間の観光漁業活動を通して～

室津漁業協同組合青壮年部
シーパラダイス室津
海下　竜一郎

１．地域の概況

上関町は、山口県の東南端にあり、瀬戸内海の周防灘と伊予灘に面した人口約四千八百人の町である（図１）。

２．漁業の概況

室津漁業協同組合は、平成 12 年度の正組合員数が 72 名で、主な漁業として、建網、一本釣り、延縄、小型底びき網などが営まれている（図１）。

３．研究グループの組織と運営

室津漁協青壮年部は、現在、30 名の部員からなり、朝市部会(10 名)と観光部会(23 名)という２つの部会（メンバーに重複あり）を主体に活動している。その他、地域イベントへの出店、スポーツ大会への参加、海浜清掃活動、視察研修等も積極的に行っている。

『シーパラダイス室津』（以下『シーパラ』）は観光部会の営業上の名称であり、運営は独立会計で行っている。なお、『シーパラ』と朝市は、ともに収入のうち 5%を組合に納入している。

３．研究・実践活動課題選定の動機

室津漁協青壮年部は平成２年に結成され、栽培漁業の一環としてのマダイの中間育成や、流通改善としての朝市などの活動を行ってきた。朝市の成功に自信を深めたことで、平成７年頃から、漁業や地域の活性化につながる活動をさらに押し進めようという気運が高まっていた。

その一方で、若い漁業者の多くは、将来の漁業経営に不安を持っており、何らかの収益を得ることの出来る新しい活動をしたいという考えを持っていた。

有志が集まって話し合いをした結果、これからの漁業には一般の人々の理解が必要になるという認識で一致し、観光漁業活動を行うことになった。そして、一般の人々に海の楽園を味わってもらいたいと言う願いから、このグループを『シーパラダイス室津』と名付け、平成８年３月、活動を開始した。

４．研究・実践活動状況及び成果

建網・延縄・磯見漁・底びき網・観光地引き網という５つのコースを設定し（漁業体

験）、獲れた魚はお客さんと一緒に調理して食べてもらう（浜料理）という企画で活動を始めた（図２,３）。

活動を開始した当時の状況は、平成８年度の山口県漁村青壮年婦人活動実績発表大会において発表し、この全国大会でも報告した。これを契機として、当初は有志の活動であった『シーパラ』も、平成９年からは正式に青壮年部活動として認められた。

当初は、設備がないために防波堤の上や海岸の休憩所などで浜料理を食べてもらっていたが、平成９年にはレンタルで事務所を整備し、屋内で食事を楽しんでもらえるようにした。平成 10 年には、中古の渡船を改装し、観光船として就航させ、島巡りや宴会クルージングといった新サービスを始めた（図４）。

その後も、顧客の要望に合わせて、遊漁案内や磯遊びなど、サービスを柔軟に提供する努力を行っている。

このように私達は順調に活動を発展させていたが、平成 11 年９月、全国的に猛威をふるった台風 18 号によって、事務所が高波に洗われて全壊した（図５）。しかも、その後のレンタル契約を拒否されたため、自力での事務所再建を余儀なくされた。

事務所の再建には莫大な費用がかかることが分かったのであるが、私達は「ここまで頑張ったのに、諦めちゃーおれん」と一致団結し、建設費を下げるため、私達の心意気に共感していただいた大工さんに安く請け負ってもらう一方、私たちも建設を手伝うことにした（図６）。

それからが大変であった。漁の合間に眠い目をこすりながら慣れない大工仕事をするので、釘が曲がったり、窓に隙間ができたりで、なかなか思うようにはいかなかった。

こうしてなんとか完成させた新しい事務所は（図７）、素人細工の不格好なところがあるものの、私たちを支えてくれた方々とメンバー全員の思いが詰まった素晴らしいものとなった。

しかしながら、同時に事務所再建に係る大きな借金も抱えることとなった。借金の返済を行いながらの活動では、当初もくろんでいたような収益にはつながっておらず、メンバーはほとんどボランティアの状態である。

それでも、私たちが、このような苦境を乗り越えて活動を続けてこられたのは、目を輝かせながら「また来るよ」と言ってくれるお客さんの笑顔や、実際にリピーターとなった方との再会の喜びがあるからである（図８）。

ある家族の場合、室津の自然と『シーパラ』を気に入って何度か来られるうち、喘息やアトピーに悩んでいた子供さんがどんどん元気になり、ついには完治してしまった。このことを聞いて、「室津の海が良かったんかねー」と皆で喜びあったこともあった。

このように、観光漁業活動を通じて、海と漁業の魅力を都市の人々に発信し続けてきた中で、単なる観光を越えた「漁村と都市との交流」が生まれている。

また、平成 11 年の台風災害を乗り越えて活動を継続したことで、メンバー同士の結束が深まり、観光漁業活動だけでなく、本業においても漁業者同士の連携を強めようとする

動きが芽生えている（図９）。加えて、U･I ターン者の受け皿として、新規着業者と漁村社会の橋渡し的な役割も果たしており、漁村の活性化につながっている。

一方、事務所の再建後は、借り入れた建設費の返済や一時的な来客数の減少(H12)により、厳しい経営を強いられている（図 10）。しかし、平成 13 年には営業努力によって来客数を回復できた（図 11）。また、平成 15 年９月には借入金の返済を完了する見込みである（図 12）。

５．波及効果

都市の客を上関町に引き込むことによって、地元の民宿や商店の売上が伸びるという経済的な波及効果の他、「地引き網」や「魚のつかみ取り」の実施ノウハウを活かして、上関町の観光イベントへの協力も行っており（図 13）、上関町全体の町おこしに貢献している（図 14）。

６．今後の課題

近年の傾向として、磯遊びなど自然体験に対するニーズが高まっていることを実感している。これに対応するためには、自然体験型のサービスを充実させて行く事が必要であり、昨年の夏には２人のメンバーが、ダイビングインストラクターの資格を取得した。

こうした私たちの活動が、都会の人たちにとっては自然の大切さや漁業への理解が深まる機会となり、私たちにとっては、子供から「お父さんかっこいい」と言われるような魅力ある漁業の実現につながることを念願している（図 15）。

室津漁協の概況
（平成12年度）

正組合員数：72名

水揚げ量：343トン
水揚げ額：2億7千万円

主な漁業種類

- 建網
- 一本釣り
- 延縄
- 小型底びき網

図１．室津漁協の位置および概況

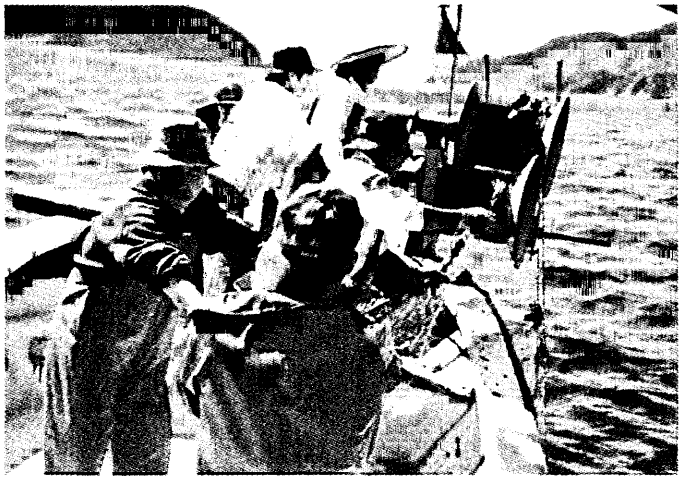

図２．体験漁業の様子

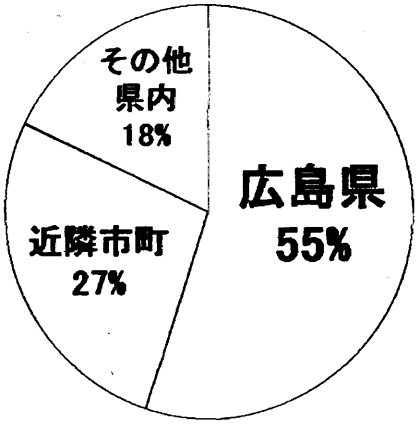

図３．シーパラダイス室津の客層

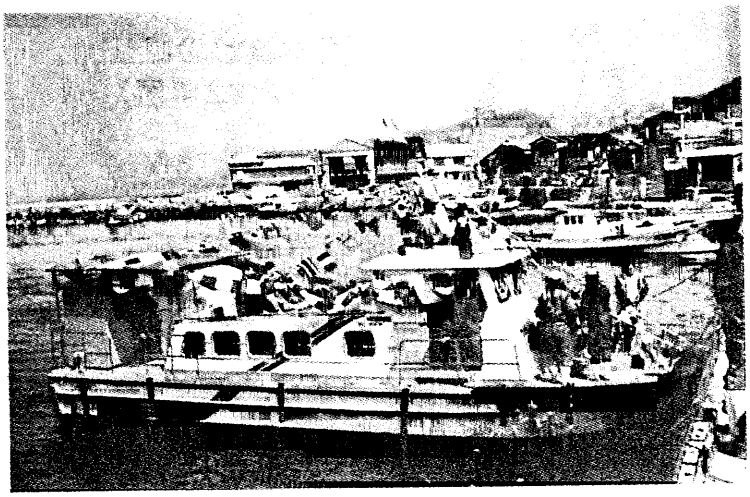

図４．観光船 シーパラダイスⅡ世号

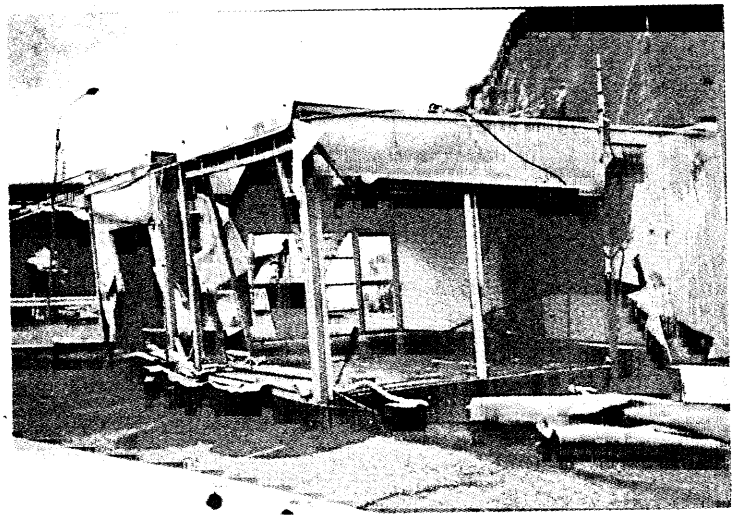

図５．台風で全壊した事務所

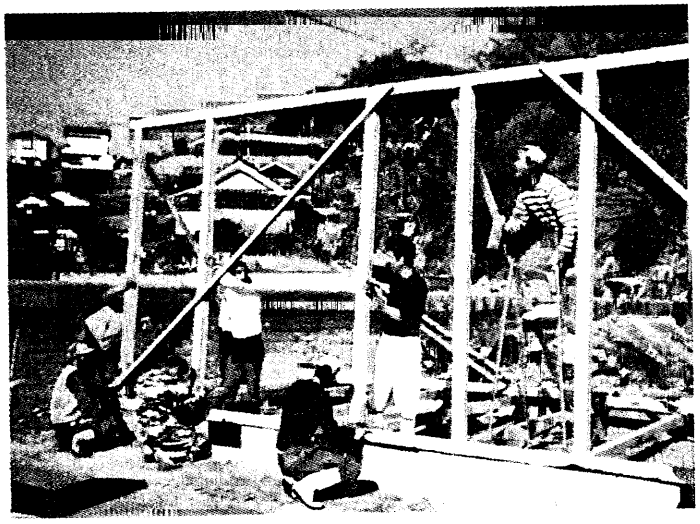

図６．事務所の再建作業

図７．新しく完成した事務所

図８．お客様からの礼状

図９．共同作業

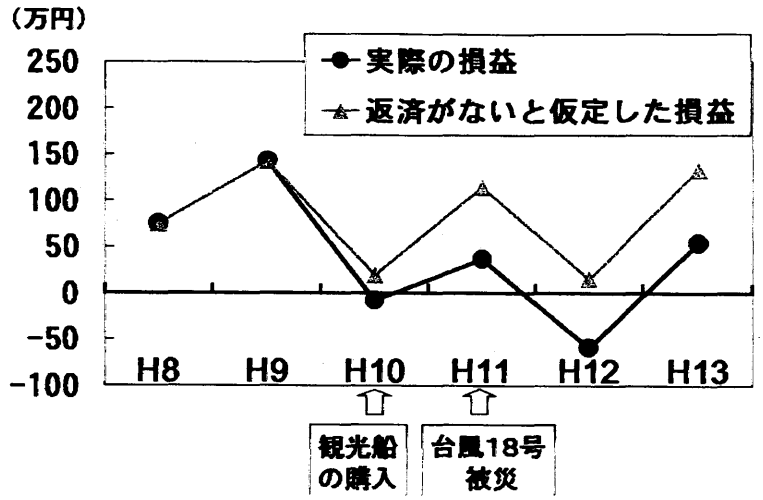

図１０．損益状況

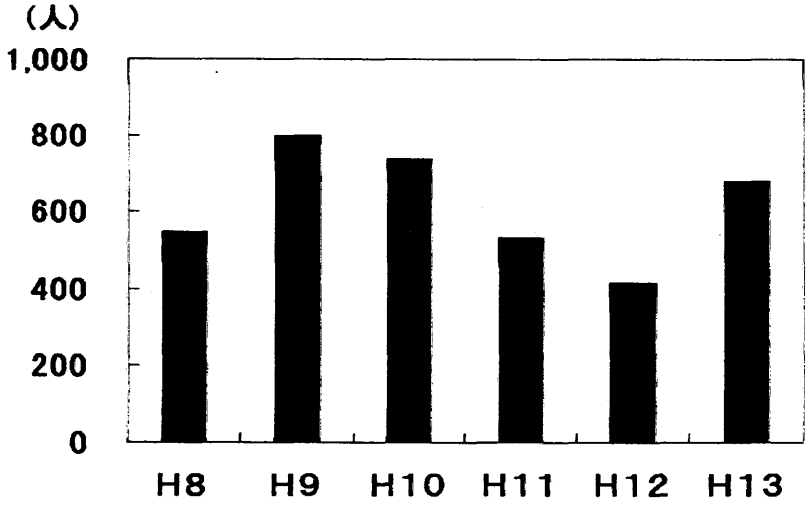

図１１．来客数の推移

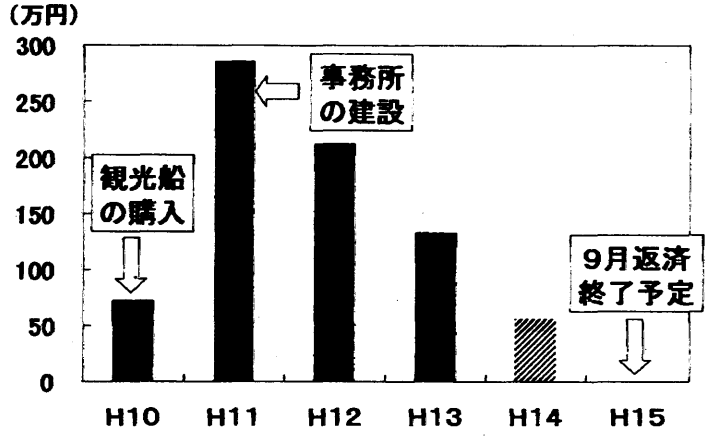

図１２．年度末借入残高の推移(14 年以降は予測)

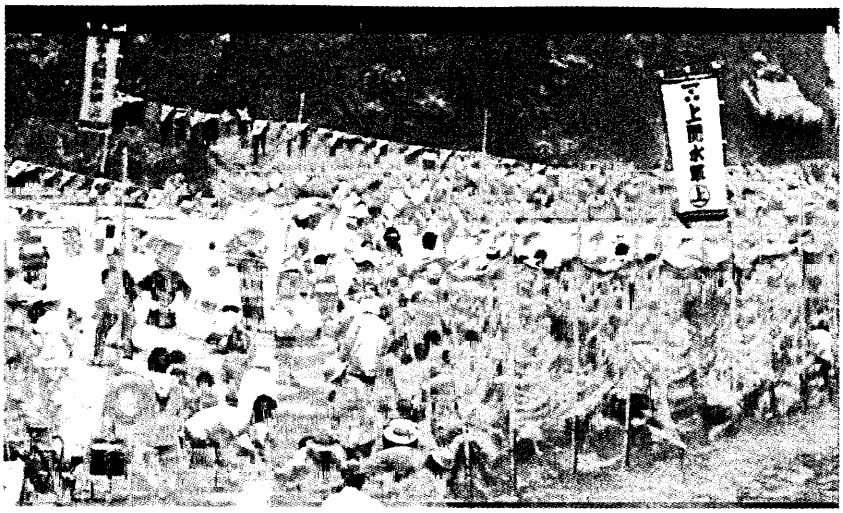

図１３．上関町の観光イベントへの協力

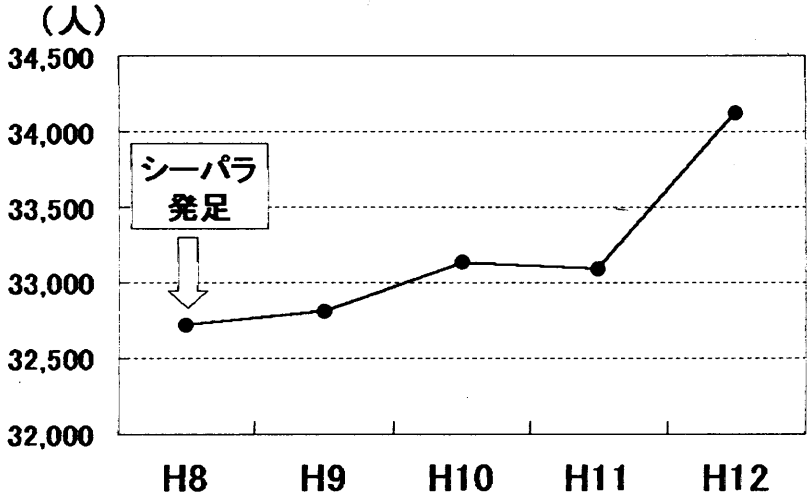

図１４．上関町の観光客数の推移

図１５．シーパラダイス室津のメンバー